本田宏彦さん

〈歯科医・アルパ奏者
志津川町十日町出身〉

自然の良さを肌で体験できたことは、本当に貴重な財産。アルパを弾く上でも、大きく影響しているようです。

ハープの一種で、南米パラグアイの民族楽器・アルパ。十八歳の時、ラジオから流れるその独特のきらびやかな魅惑の音色に魅せられ、「ぞくぞくと鳥肌がたつような感動を覚え、自分でも弾いてみたい」と傾倒。三十六歳の時には、もっと上手になりたいと本場パラグアイへ二年間の音楽留学。今では、日本に数少ないアルパ奏者であり、その活躍は日本よりも海外で有名。パラグアイでは毎日、本田さんの曲が流れているほど。

「本業は大丈夫なのという人がいるけれど、歯科医と演奏活動、どちらも本業。時間の使い方の問題だと思いますよ。ものを極めようとしたら、広く浅くでは頂点を極めることは難しい。私はゴルフもスキーも釣り、囲碁、将棋、麻雀、その他一切のギャンブルもやりません。三十年以上アルパに打ち込んできて、やっとある程度、格好がついてきた。

人間のエネルギーは決まっているんですよ」

「面白いことに、アルパの弦は三十六本ですが、本来は三十二本。歯の数も三十二本です。双方とも一本として同じものはない。一本欠けても困るでしょ。二足のわらじと言われますが、自分の中ではとてもバランスがとれている。志津川に住んでいるおふくろには、おまえは幸せだとよく言われますよ」

今年は6枚目のCDをリリースする他、秋には、アルパの本場・パラグアイからギタリストを招いたコンサートを予定している

これまでにアルパの天才ニコラス・カバジェロやマリアーノ・ゴンサレス、またアルパを始めるきっかけとなり、師と仰ぐアルフレド・ロランド・オルティスとの共演も実現。ここ数年、大小さまざまな演奏会で忙しい。

「アルパの魅力をもっともっと伝えたい。そしてこの音は本田だ！というオリジナリティを追求したい。平成十七年には志津川でも、ぜひコンサートをやりたいですね」

“帰るところがある”というのはいい。志津川は感受性を育んでくれた、私の「心」の故郷。

Hirohiko HONDA…1951年、中国・武漢市生まれ。2歳で引き揚げ後、志津川町で育ち、小学4年の時、チリ地震津波に襲われ九死に一生を得る。仙台一高、岩手医大歯学部卒。平成3年に仙台市青葉区川平でアルパ歯科・矯正歯科医院を開業。東北地方を中心に全国で演奏活動をし、作曲も手掛ける。
＊CDのお問い合わせは
☎46-5458まで。

特別養護老人ホーム・慈恵園や公立志津川病院の慰問をはじめ、ベイサイドアリーナや小・中学校でのコンサート等々で、私たち町民にもおなじみ

110年の輝きを明日へ

「おばちゃん、今日はね、学校でとっても楽しいことがあったんだよ。」「そうかい、それは良かったね。気をつけて帰るんだよ。」道先で、そんな言葉が交わされている光景をよく目にする、私たちの町。大人も子どもも互いに声を掛け合い、笑いと明るい声が響いている。そんなあたりまえのことを、いつまでも大切にしたい。今ある、この志津川の自然の豊かさを、いつまでも守りつづけたい。「この町が大好き」という人がとても多い、この町の良さを残していきたい。志津川町の明るく元気な「未来」は、すでにもう始まっています。

写真／戸倉小学校のみなさん